

もったり草

終日を 日根乃住もったり もったりかな

終日(ひねもす)を、日根の地に住み、もったりと、もったりとして過ごし…

そんな中で、何となく気になった、他愛の無い題材を見つけては…

気ままにパソコンに書き留めて、ああ～でもない、こお～でもない…と、考えを巡らせる…

纏まりの無い文章なのですが…自分一人で、悦に入っている。

傍らには…必ずと云って良いほど…猫ちゃん「ダ～ヤ」が顔を埋めて居眠っている…

取り上げたのは…この人のスピーチ…皆さんはどのように感じるのでしょうか？

「元ウルグアイ大統領:ホセ・アルベルト・ムヒカ・コルダノ」氏の(2012年)国連環境会議での演説

【ムヒカ前大統領の伝説のスピーチ日本語全文書き起こし】から

『この場に出席されている世界各国の代表の皆さん、ありがとうございます。

お招きいただいたブラジル国民、そして大統領閣下に感謝します。

これまでに発言された全ての方々が表明された誠意にも大いに感謝いたします。

いち国家指導者として、貧しい人々のための取り決めづくりに仲間として共に参加することを表明いたします。

しかし私たちにもいくつか声高らかに質問をすることをお許し願いたい。

今日の午後ずっと、私たちは「持続可能な発展」と「膨大な数の貧困者対策」を話し合ってきました。

けれど、私たちの本音は何でしょう？

今の発展を続けることが本当に豊かなのでしょうか？

質問させてください。

もしドイツ人がひと家族ごとに持っているほどの車を、インド人もまた持つとしたら、この地球はどうなってしまうのでしょうか？

私たちが呼吸できる酸素は残されるのでしょうか。

もっとはっきり言いましょう。

例えば、最も裕福な西側諸国と同じようなレベルで、70億、80億の人々に消費と浪費が許されるとしたら、それを支えるだけの資源が今の世界にあるのでしょうか？

それは可能なのでしょうか？

それとも別の議論が必要ですか？

今のこの文明をつくったのは私たちです。

私たちは市場と競争社会から、文明という落とし子を生み出し、物質面での驚異的な進歩をもたらしました。

そして市場経済は市場社会をつくりだし、それを世界規模に拡大してしまいました。いわゆるグローバリズムです。

そのグローバリズムを、私たちはコントロールできていますか？

逆にコントロールされてはいないのでしょうか？

こんな残酷な競争で成り立つ社会で、「みんなで世界を良くしていこう」なんて議論が、本当にできるのでしょうか？

私たちは本当に仲間なのですか？

私は今回の会議を否定するために言っているのではありません。

違います。逆です。

我々が今挑戦しようとする目の前の巨大な困難は、決して環境問題ではなく、明らかに政治の問題なのです。

人類は今消費社会をコントロールできていない。

逆に人類のほうがその強力な力に支配されているのです。

我々は、発展するためにこの地球上にやってきたのではありません。

幸せになるためにやってきたのです。

人生は短く、あっという間です。

しかし、その人生こそが何より価値あるものなのです。

余計なものを買うために、もっともっとと働いて人生をすり減らしているのは、消費が「社会のモーター」となっているからです。

なぜなら消費が止まれば経済がマヒしてしまい、経済がマヒすれば不況というお化けが我々の前に姿を現します。

しかし今この行き過ぎた消費主義こそが、地球を傷つけ、さらなる消費を促しています。

商品の寿命を縮め、できるだけ多く売ろうとする。

今の社会は **1000** 時間もつような電球はつくってはいけないのです。

本当は **10** 万時間、**20** 万時間もつ電球はあるのに、そんなものはつくらない。

なぜなら我々はもっと働き、もっと売るために、「使い捨て文明」を支える悪循環の中にいるからです。

これは政治問題です。

我々は今までと違う文化のために闘い始めなければならない。

石器時代に戻ろうとは言っていません。

このままずるずると消費主義に支配されるわけにはいかない。

私たちが消費主義をコントロールしなければならないと言っているのです。

ですから私は、これが政治問題だと言いました。

とても謙虚な思いからです。

かつての賢人たち。エピクロスやセネカ、そしてアイマラ人たちは次のように言っています。

「貧しい人とは少ししかものを持っていない人ではなく、もっともっとといくらあっても満足しない人のことだ」と。

大切なのは、『考え方』です。

だからこそ、皆さんと共にこの会議に参加し、国家指導者として、皆さんと共に努力したいのです。

私の発言は皆さんを怒らせるかもしれない。

しかし気づかなくてははいけません。

「水問題」や「環境の危機」がことの本质ではないということです。

見直すべきは我々が築いてきた文明の在り方であり、我々の生き方です。

なぜそう思うのか？

私は環境に恵まれた小さな国の代表です。

人口は 300 万人ほど、いやあ、もうちょっと 320 万人ほどしかいません。

けれど世界で最もおいしい牛が 1300 万頭、また素晴らしい羊が 800 万から 1000 万頭。食べ物、乳製品、そして肉の輸出国です。

国土の 90% が有効に使えるほど豊かな国なのです。

だからかつて私の仲間たちは 8 時間労働のために闘い、ついには 6 時間労働を勝ち取った人もいます。

しかしそうなったら今度は仕事を 2 つ持つようになりました。

なぜか？ たくさんの支払いがあるからです。

バイクやマイカーのローンを次から次へと支払っているうちに、私のようなリウマチ持ちの老人になって人生が終わってしまう。

そして自分に問いかけるのです。これが私の一生だったのかと。

私が言っているのは基本的なことです。

発展は幸せの邪魔をしてはならない。

発展は「人類の幸せ」「愛」「子育て」「友達を持つこと」、そして「必要最低限のもので満足する」ためにあるべきものなんです。

なぜなら、それらこそが一番大事な宝物なのだから。

環境のために闘うのなら、一番大切なのは、人類の幸せであることを忘れてはなりません。

ありがとう。』

私もまた人類経済発展の為の歯車部品の一部として、自身の生活人生の大半を捧げてきた。

まるで、チャップリン「モダン・タイムズ」のストーリーのようだなあ…

「知恩知足」「私の人生・一期一会」…

自戒の念を込めて、何度か…、ムヒカ氏の演説内容を読み返しております…

元ウルグアイ大統領: ホセ・アルベルト・ムヒカ・コルダノ氏の名言



[世界で最も貧しい大統領の生き方・考え方が心に沁みる](#)

郊外の静かな農場で質素に暮らし、個人資産は約 18 万円相当の車 1 台のみ…。南米の小国ウルグアイに、世界最貧とも言われる大統領がいます。豊かさとは何か、人生で大切なこととはなにか…ホセ・ムヒカ氏のスピーチに感銘を受ける人が続出しています。

1935 年生まれ。貧困家庭に生まれ。

1960 年代に入って都市ゲリラ組織「ツバマロス」に加入。

1972 年に逮捕され、軍事政権が終わるまで 13 年近く収監された。

2009 年ウルグアイ大統領選挙に当選。

2010 年 3 月 1 日より同国大統領。第 40 代大統領。

2012 年 「国連持続可能な開発会議」でのスピーチ

2015 年 大統領退任

貧乏なひととは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ

出典 [世界で最も貧しい大統領の衝撃的なスピーチ | THE NEW CLASSIC](#)

発展は幸福を阻害するものであってはいけません。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、子どもを育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。これらをもたらすべきなのです。

出典 [世界で最も貧しい大統領の衝撃的なスピーチ | THE NEW CLASSIC](#)

私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです。人生は短いし、すぐ目の前を過ぎてしまいます。命よりも高価なものは存在しません。

出典 [リオ会議でもっとも衝撃的なスピーチ: ムヒカ大統領のスピーチ \(日本語版\) | Hana.bi](#)

人は物を買う時は、お金で買っていないのです。そのお金を貯めるための人生の裂いた時間で買っているのです。

出典 [ムヒカ大統領のインタビュー: 消費主義社会について | Hana.bi](#)

もっと良い世の中の目指すということは中古車を集め、乗客率を倍にするということではありません。

出典 [ムヒカ大統領のインタビュー:消費主義社会について | Hana.bi](#)

人間はもっと良い暮らしを持つためにものが必要なのですが、それを達成するために消費と仕事をどんどん増やさなければ行けない計画的陳腐化や底を知らない消費主義社会にイエスと言ってはいけません。

出典 [ムヒカ大統領のインタビュー:消費主義社会について | Hana.bi](#)

若い人には恋する時間が必要。子どもが生まれれば、子どもと過ごす時間が必要。働いてできることは、請求書の金額を払うことだけ。職場と家の往復をするだけに時間を使っていると、いつの間にか老人になってしまうよ。

出典 [【世界一貧しい大統領】ムヒカ前大統領の言霊まとめ。#Mr サンデー - Togetter まとめ](#)

お金があまりに好きな人たちには、政治の世界から出て行ってもらう必要があるのです。彼らは政治の世界では危険です。お金が大好きな人は、ビジネスや商売のために身を捧げ、富を増やそうとするものです。しかし政治とは、すべての人の幸福を求める闘いなのです。

出典 ["世界一貧しい大統領"は言う「金持ちは政治家になってはいけない」](#)

◆幸せと物と時間、本当のリーダー

ムヒカ前大統領が日本人について語った中で興味深いことがあります。それは幸せと物と時間についての部分。

幸せとは物を買うことと勘違いしているからだよ。幸せは人間のように命あるものからしかもらえないんだ。物は幸せにしてくれない。幸せにしてくれるのは生き物なんだ。

無駄遣いしたりいろんな物を買収するのが好きじゃないんだ。その方が時間が残ると思うから。もっと自由だからだよ。なぜ、自由か？あまり消費しないことで大量に購入した物の支払いに追われ、必死に仕事をする必要がないからさ。根本的な問題は君が何かを買うとき、お金で買っているわけではないということさ。そのお金を得るために使った『時間』で買っているんだよ。請求書やクレジットカードローンなどを支払うために働く必要があるのなら、それは自由ではないんだ

君のように若い人は、恋するための時間が必要なんだ。子どもができたら、子どもと過ごす時間が必要だし、友達がいたら友達と過ごす時間が必要なんだ。働いて、働いて、働いて、職場との往復を続けていたら、いつの間にか老人になって、唯一できたことは請求書を支払うこと。若さを奪われてはいけませんよ。ちょっとずつ使いなさい。そう、まるで素晴らしいものを味わうように、生きることにまっしぐらに

ムヒカ前大統領が言う「時間」とは何でしょうか？それは他ならぬ私たち自身が生きているこの時間のこと。「人生」と呼び変えてもいいでしょう。あなたがお金を得るために働いている「時間」はまさにあなたの「人生」そのものです。

ではそんな、必要以上のものを消費するためにお金を得ようと「人生」という「時間」をすり減らしながら働くこの社会を変えることはできるのでしょうか？ムヒカ前大統領はこう答えます。

とても難しいね。君が日本を変えることはできない。でも自分の考え方を考えることはできるんだよ。世の中に惑わされずに自分をコントロールすることはできるんだ。

これは絶望ではなく、ゲリラとして長く苦しい戦いを生き抜き、自分の哲学を実践しながら5年間大統領として務め上げたムヒカ前大統領ならではの実感として受け取るべきなのでしょう。ウルグアイを変えようとしたムヒカ前大統領は、彼ひとりだけではその大きな変化を起こすことができないことを身をもって感じたのかもしれませんが。この言葉は次のガンディーの有名な言葉ともリンクします。

あなたがすることのほとんどは無意味であるが、それでもしなくてはならない。そうしたことをするのは、世界を変えるためではなく、世界によって自分が変えられないようにするためである。

ムヒカ前大統領は自らの敷地に農業学校を開き、若者たちに花の栽培などを教えています。そして本当のリーダーについて以下のように述べています。

私がいなくなったときに、他の人の運命を変えるような若い子たちが残るように貢献したいんだよ。本当のリーダーとは、多くの事柄を成し遂げる人ではなく、自分をはるかに越えるような人材を残す人だと思うから。

ムヒカ前大統領は種を蒔き、花を育てるように次の世代への教育を行っているのかもしれませんが。80歳になった自分だけではできなかったことを多くの次世代の子供たちが受け継ぎ、花開かせていく可能性に全身全霊を掛けているとも言えそうです。

**「貧乏とは少ししか持っていないことではなく、限りなく多くを必要としもつとつと欲しがることである」
「貧乏とは無限の欲がある人のこと」**

「ハイパー消費社会を続けるためには、商品の寿命を縮めてできるだけ多く売らなければなりません。10万時間持つ電球を作れるのに、1000時間しか持たない電球しか売ってはいけない社会なのです。長持ちする電球は作ってはいけないのです。もっと働くため、もっと売るためにの使い捨て社会なのです。」

「私たちは発展するために生まれてきたわけではありません。幸せになるために地球にやってきたのです」

そして、3月の取材の際は、日本を絶賛したムヒカ前大統領だったが、今回は違って、今の日本の状況について一言、「日本人は魂を失った。」——と重い言葉で指摘した。

ムヒカ前大統領は大のネクタイ嫌いである。今年3月1日に行われたウルグアイ新大統領就任式でも、前大統領はノーネクタイで出席した。

「我々も英国紳士のような服装をしなければならない。それが世界中に強制されたものだからです。」

「日本人ですら信用を得るために着物を放棄しなければならなかった。みんなネクタイを締めて変装しなければならなくなった。欧米の価値観一色に塗りつぶされてしまった世界。」

「ペリー提督がまだ扉を閉ざしていたころの日本を訪れた時の話さ。時の日本は『西洋人は泥棒』って思っていた時代だね。あれは間違いではなかったけど、賢い政策で対応したとは思えよ。西洋にある進んだ技術に対抗できないことを認め、彼らに勝る技術をつくろうと頑張ったんだ。

そしてそれを成し遂げてしまった…。でもそのとき日本人は魂を失った。」

「人間は必要なものを得るために頑張らなきゃいけないときもある。けれど必要以上のモノはいらない。幸せな人生を送るには重荷を背負ってはならないと思うんだ。」

「長旅を始めるときと同じさ。長い旅に出るときに、50kgのリュックを背負っていたら、たとえ、いろんなモノが入っていても歩くことはできない。100年前150年前の日本人は私と同意見だったと思うよ。今の日本人は賛成じゃないかもしれないけどね。」

多くのモノを持たず、それ以上を望まなかったかつての日本人。

「足るを知る」を美德とした文化は大きな変貌を遂げてしまった。

「今の日本についてどうお考えでしょうか？」と聞くと、次のように答えた。

「産業社会に振り回されていると思うよ。すごい進歩を遂げた国だとは思えよ。けど、本当に日本人が幸せなのかは疑問なんだ。西洋の悪いところをマネして、日本の性質を忘れてしまったんだと思う。日本文化の根源をね。」

耳が痛い。

「幸せとは物を持つことと勘違いしているからだよ。幸せは人間のように命あるものからしかもらえないんだ。物は幸せにしてくれない。幸せにしてくれるのは生き物なんだ。」

「私はシンプルなんだよ。無駄遣いしたりいろんな物を買収込むのが好きじゃないんだ。その方が時間が残ると思うから。もっと自由だからだよ。」

「なぜ、自由か…？あまり消費しないことで大量に購入した物の支払いに追われ必至に仕事をする必要がないからさ。根本的な問題は君が何かを買うときお金で買っているわけではないということさ。そのお金を得るために使った『時間』で買っているんだよ。請求書やクレジットカードローンなどを支払うために働く必要があるのならそれは自由ではないんだ。」

私たちは、いつの間にか、ほんとうの幸せとは何か？人間が生きる目的とは何か？を見失ってしまった。

幸せに暮らすため、自由でいるため、みんなが物を欲しがらない暮らし……

「その世界は実現可能だと思いますか？」

「とても難しいね…」と言いながら、ムヒカ前大統領は、インタビュアーに向かってこう言った。

「君が日本を変えることはできない。でも自分の考え方を変えることはできるんだよ。世の中に惑わされずに自分をコントロールすることはできる。君のように若い人は。恋するための時間が必要なんだ子どもができたら、子どもと過ごす時間が必要だし、友達がいたら友達と過ごす時間が必要なんだ。」

「働いて、働いて、働いて、職場との往復を続けていたら、いつの間にか老人になって、唯一できたことは請求書を支払うこと。若さを奪われてはいけないよ。ちょっとずつ使いなさい。そうまるで素晴らしいものを味わうように…。生きることにまっしぐらに。」慈愛に満ちた優しい眼差しでそう語った。

ムヒカ前大統領の口から溢れるのは、幼いときから生きるために必死に戦い積み重ねてきた自らの体験で導き出した信念だ。今は、農業学校を建て、花の栽培などを教えている。

「そこに学校をつくるのは一つの夢だったと思いますがこの先の夢・目標はありますか？」との質問に対しては次のように語った。

「私がいなくなったときに他の人の運命を変えるような若い子たちが残るように貢献したいんだ。本当のリーダーとは多くの事柄を成し遂げる人ではなく自分をはるかに越えるような人材を残す人だと思うから。」

「本当のリーダーとは自分を越える人材を残すことだ。」

最後に「日本の子どもたちへのメッセージ」を寄せた。

「日本にいる子供たちよ。君たちは今、人生で最も幸せな時間にいる。経済的に価値のある人材となる為の勉強ばかりして、早く大人になろうと急がないで。遊んで、遊んで、子供でいる幸せを味わっておくれ」